

# 地域における日本語学習支援を「つなぐ」 —外国人集住都市での—事例—



北村 祐人

(名古屋大学 とよた日本語学習支援システム)

URL <http://www.toyota-j.com/>



# 豊田市の状況





県営名古屋空港

岐阜県

長野県

名古屋市

豊田市

愛知県

中部国際空港  
(セントレア)

# 概要

- 人口 422,502人(平成26年7月)
- トヨタ自動車  
(本社をはじめ国内生産拠点の大半)
- 労働者人口の約40%:自動車関連産業
  
- 外国人 13,292人(3.15%)
- 約40%がブラジル人
- 約半数が保見団地に集住

# 社会的な課題

## ○「3つの壁」

### 1 法律・制度の壁

- ・外国人登録制度、学校教育法等

### 2 ことばの壁

- ・日本語によるコミュニケーション能力不足

### 3 心の壁

- ・生活習慣の違い等

# とよた日本語学習支援システム

# 体制

○名古屋大学、豊田市内の企業・地域コミュニティ・関係機関（商工会議所、ハローワーク）などと連携

○日本語教育専門家を中心にワーキンググループ（以下、WG）を結成。それぞれが連携しながらシステム・構築運営。

○システム・コーディネーターを豊田市内に配し、WGや豊田市内の企業、地域コミュニティ、関係機関との連携の中心とする

# 基本的方針1

- 学習しやすい環境整備（出張型教室、eラーニング）
  - 対話を通じた日本語学習支援のあり方の提案
  - 能力の測定（とよた日本語能力判定）
  - 本システムの運営上必要な人材の育成
- 
- 共通の基準の策定普及
  - 日本人側に対する「わかりやすい日本語」の提案
  - 日本語教室へ「日本語パートナー」の導入
  - 一般向けの講座実施

# とよた日本語能力レベル

レベル	段階	内容
6	熟達段階	より抽象的な議論が日本語を用いてできる。
5	深化段階	効果的なコミュニケーションが日本語を用いてできる。
4	拡大段階	より多くの領域で日本語を用いてコミュニケーションができる。
3	自立段階	自立して最低限度の社会参加が日本語を用いてできる。
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて基礎的な社会参加が日本語で行える。
1	基礎段階	限られた単語を理解したり、話す・書くことができる。
0	未学習段階	日本語を話したり聞いたりすることがほとんどできない。

# 基本的方針2

- 日本語教室を中心とする
- 開設を希望する企業などに「支援」
- (予備調査)コミュニケーション能力向上のニーズ
- 受け入れ側の日本語による外国人とのコミュニケーション能力の向上 ↓

## 日本語パートナー

(本システムが派遣するプログラム・コーディネーターの調整・進行、対話を通じた日本語学習補助)

→地域日本語コーディネーター

# システム・コーディネーターの役割

7つのWGや複数の企業、関係団体などをつなぐ

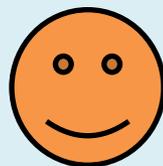
何をつなぐのかという観点、3つに分類

1. 市内をつなぐ
2. システム内部をつなぐ
3. 外部に発信する



[豊田市委託事業]  
名古屋大学

とよた日本語学習支援システム



システム・コーディネーター



コースデザイン  
WG

日本語能力判定  
WG

人材育成  
WG

eラーニング  
WG

広報  
WG

ホームページ  
WG

ボランティア  
WG



企業



地域コミュニティ



学習者

市内日本語教室

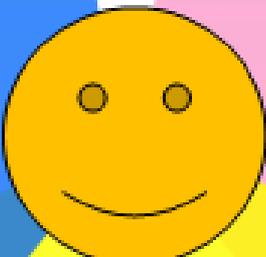
地域コミュニティ

行政

大学

外国人雇用企業

**市内をつなぐ**



システム・コーディネーター

他自治体

国

他自治体の企業

他自治体の地域コミュニティ

**外部に発信する**

**システム内部をつなぐ**

ワーキンググループ

事務局

プログラム・コーディネーター

# 事例紹介

## ○導入教育カリキュラム追加

- ・生活者としての外国人
- ・日本語以外の知識も生活には必要
- ・日本語教室で生活知識と

それに関連する日本語の必要性

## →その他の事業との関連

(文化庁生活者として外国人のための日本語教育事業)

# 導入教育カリキュラム追加

## ○ビデオ教材の作成

- ・市職員の協力

- 豊田市「生涯学習出前講座」の活用

- 市職員による説明

- 条件のすり合わせ

- 承諾へ

# 専門職としての視点

○活用可能なリソースの把握

○必要なときにネットワークの拡張

○専門的スキルとコーディネーションのクロス